

新潟県高等学校教育研究会会長

(新潟県立新潟南高等学校長)

横堀 真弓

新潟県高等学校教育研究会（以下、高教研）は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的として昭和23年(1948年)に設立され、70年以上の永きにわたり本県の後期中等教育に携わる教職員の研究・研修活動の一端を担ってまいりました。

国語、地理歴史・公民、数学、理科、芸術、英語、農業、工業、商業、水産、家庭科、保健体育、情報、生徒指導、図書、視聴覚、定通の17の部会で精力的に研究・研修活動に取り組み多くの成果を残しております。

当研究会は以下の2つを各部会共通目標として掲げております。

- 1 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成 〈共通性の確保〉
- 2 多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応 〈多様性への対応〉

これらについては、今年度も引き続き、研修目標の柱として受け継いでいきます。

さて、昨年度から年次進行での新高等学校学習指導要領の実施が始まりました。「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間力」のバランスよく育成することを目指す学習指導要領を確実に実施するため、また、観点別評価を有効に進めていくため、当研究会の各教科等の部会では、授業や評価の改善に係る研究に取り組んでいます。特に、コロナ禍において急速に進んだ新しい教育のスタイル、ICTを活用した学習についても重点的に実践研究に取り組んでいます。

各学校では、現在、生徒たちの主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「学び」をさらに深化させる授業づくり等が進められています。当研究会の担う役割は、各部会での研究実践を積み重ねるとともに、研究成果を広めることにより、各校における指導力の向上、教育課程の改善、教材の開発、評価方法の研究などに生かしていただくという重要なものであると受け止めています。

加えて、今年度から、教員免許更新制の発展的解消に伴う新たな研修制度として、「研修履歴の記録の作成」と、当該履歴を活用した校長等による「対話に基づく受講奨励」により、教職員自らが、自らの学びを主体的にマネジメントしていくことが求められます。高教研における研修は、校内にとどまらず、様々な学校の教職員とともに学ぶ貴重な機会となります。これまで以上に多くの方々から当研究会に御参加いただき、互いに高め合い、みずからの成長が実感される学びの場が広がっていくことを期待しています。

これからも当研究会は、本県高等学校等の教育の充実・発展に資するために、一人一人の会員がその果たすべき役割を十分に自覚し、主体的に実践的な研究・研修活動に取り組んでまいります。今後とも当研究会に対しまして変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。